

西行法師や松尾芭蕉がその絶景をたたえ、歌に詠んだ東稲山一帯の桜の木々。桜は歴史のまち平泉を印象付けるにふさわしい花として選定された



中尊寺月見坂の両脇には、江戸時代に伊達藩によって植樹された樹齢300年を数えようかという老杉が多々あり、歴史の重みを感じさせる

平泉の花鳥木とは？
84年9月に、町民の誰もが心のよりどころとし、さらに町の発展を表す町のシンボルとして花鳥木の制定準備を開始。これは町合併30周年記念事業の一つとして進められました。町内に生息、成長する花、鳥、木で町民から親しまれているものを選定の基準として募集したところ、合計376人から1062件の応募がありました。その後、制定委員会で、応募結果を尊重しながら意見交換し、それぞれの候補を選定。合併30周年となる85年4月1日に、町の花鳥木として制定されました。

■町の花「さくら」
平安時代から平泉の花として、歌に詠まれており、古都平泉を印象付けるにふさわしい花です。往時の平泉を再現することにより、歴史のまちにふさわしい美観を期待し、町の花に選定しました。

■町の鳥「うぐいす」
鳴き声、姿ともに優雅であり、町民の耳目にも多く接し、自然愛護の心を育てるのにふさわしい鳥です。美しい自然が、いつまでも残ることを期待し、自然の豊かなところに住むうぐいすを町の鳥に選定しました。

■町の木「すぎ」
自然と調和し整然と天に向



町章の制定が発表された「町合併10周年と農地改革20周年記念式典」(1965年5月1日)

かつてまっすぐに伸びている姿は、歴史の重みと気高さが感じられ、町の木としてふさわしいものです。限りなく躍進する本町の象徴として、町の木に選定しました。

平泉町民憲章とは？
800年前からの文化都市として全国に宣伝され、世界的にその名が知られるようになった平泉にふさわしい町民となるべく、66年6月に初めて町民憲章が制定されました。

その後社会情勢の変化などを背景に、85年4月1日に町民憲章が一部改訂され、現在の形となっています。

平泉町観光大使

町では、全国で活躍する町出身者やゆかりのある人などを対象として、2018年8月現在8人を平泉町観光大使に任命しています。各職域を通じて町の魅力を発信してもらい、平泉ファンの拡大と観光客誘致の推進につなげています。

- ▶ 西村専次さん(ふるさと平泉会会長)
- ▶ 菅原哲朗さん(元日本農業新聞社社長)
- ▶ 高橋富雄さん(富岡八幡宮神輿総代連合会顧問)
- ▶ 武田双雲さん(書道家)
- ▶ 星吉紀さん(ミュージシャン「姫神」)
- ▶ 大沢桃子さん(歌手)
- ▶ 金澤未咲さん(歌手)
- ▶ 野村美菜さん(歌手)

平泉町民憲章
わたくしたちは、奥州藤原文化発祥の地、平泉の町民であることに誇りを持ち、互いの信頼と融和を基に、平泉町が美しく豊かに発展していくことを願ってこの憲章を定めます。

- 一、わたくしたちは心と体をきたえ健康づくりに努めます
- 一、わたくしたちは自然と文化を愛し住みよい環境をつくりまします
- 一、わたくしたちは仕事にはげみ生産の向上をはかりまします
- 一、わたくしたちは先人の偉業をたたえ文化財の愛護につとめます
- 一、わたくしたちは互いに助けあい福祉の心をそだてまします

特集 まちのあれこれ

普段生活している中で、何げなく目にする町章。どんな経緯で、いつできたのか皆さんは知っていますか？ 今月号の特集は、町章や町民憲章など知っているようで知らない、町に関するあれこれをご紹介します。



役場庁舎正面には町章が掲げられており、平泉ライオンズクラブから寄贈された町民憲章の石碑がある

平泉町章とは？
1955年4月15日に平泉町と長島村が合併して、現在の平泉町が誕生しました。65年2月に、平泉町合併10周年を記念して町民の郷土愛を高め、豊かな住みよい郷土の建設に資するため躍進する平泉を象徴するにふさわしい町章を一般から公募。町章の応募は全国各地から386点が集まり、審査の結果、群馬県の潮美鶴さんの作品に決定しました。同年5月1日に開催された町合併10周年と農地改革20周年記念式典の席上で、町章の制定を発表。以後この町章は町を象徴する紋章として、各式典や賞状などさまざまな場面で使用されています。

なおデザインについては、平泉の「ヒ」と「コ」を兼ね飛鳥形意匠にかたどり、町勢将来の雄飛、発展、福祉向上、融和、協力、団結を力強く表現したものと なっています。



平泉町章(1965年5月1日制定)